

Jeffrey Johnson & Daniel Hruschka 2014 ch.3 Research design and research strategies.
In Russell Bernard and Clarence Gravlee (eds.), *Handbook of Methods in Cultural Anthropology*. Thousand Oaks: Rowman & Littlefield Publishers, pp.97–129.

ジェフリー・ジョンソン、ダニエル・ルシュカ「リサーチデザインとリサーチ戦略」『文化人類学における方法ハンドブック』

・信頼できる主張とは、体系的で、研究者が知ることとどのように知ることになったのかについての情報を、私たちに与える過程に基づくべきである。pp.97–98

- リサーチデザインとは注意深い計画と知ることの過程の実施である。

事前の計画の利点

- ①フィールドにおいて不可避の偶然性を取り扱うことができる。
 - ②他者がチェックすることができる。
 - ③データ収集の方法と分析と、特定の概念や過程との関係を明らかにする。
 - ④よいリサーチデザインは助成金獲得にも役に立つ。
- この章では、有効な結果や信頼可能な説明を生み出すために重要なデザインの要素に焦点を当てる。

・人類学者は詳細に注意を払ってきたが、詳細が記述され、解釈される構造については注意が払われてこなかった。pp.98–102

- 人類学の初期から、科学的な方法への関心と、民族誌の中でそれらの方法を実際に使用することの間の緊張関係があった。
- 英米の初期の人類学者たちが科学的な方法を支持すると表明しつつも、実際に研究を行ったときに適切なリサーチデザインについて彼らが考えていたという証拠はほとんどない。それは、方法論を公式に教授する機会がなかったことからもうかがえる
- 60年代に方法論への関心が高まった時ですら、体系的な方法とデザインの詳細は軽視されていた。

文化人類学における現代のリサーチ戦略 pp.102–107

・研究を行うときに、評価基準を追求するという目標と、それを満たす様々なリサーチ戦略がある。

- 人類学者がよい著作物を評価する基準のリスト¹
 1. 説明が生き生きと状況を伝達しているか
 2. 記述が十分に豊かかどうか

¹ 著者が通常言及されることが多いであろうものを列挙しているもので、人類学の中で厳密に確立された基準というわけではない。

3. 語り口が説得的 (compelling) かどうか
4. 現地の当事者が成果や解釈に同意するか
5. 記述はいくつかの客観的な基準にとって正確かどうか
6. 記述がすべてのデータに一致しているかどうか
7. 競合する説明や解釈が考えられるかどうか
8. 方法が適切に意図した概念や変数を捉えているかどうか
9. 方法が信頼可能かどうか
10. 成果が反復可能かどうか
11. 成果が一般化可能かどうか
12. 成果が確立された理論を前進させたり、それに挑戦したりするかどうか

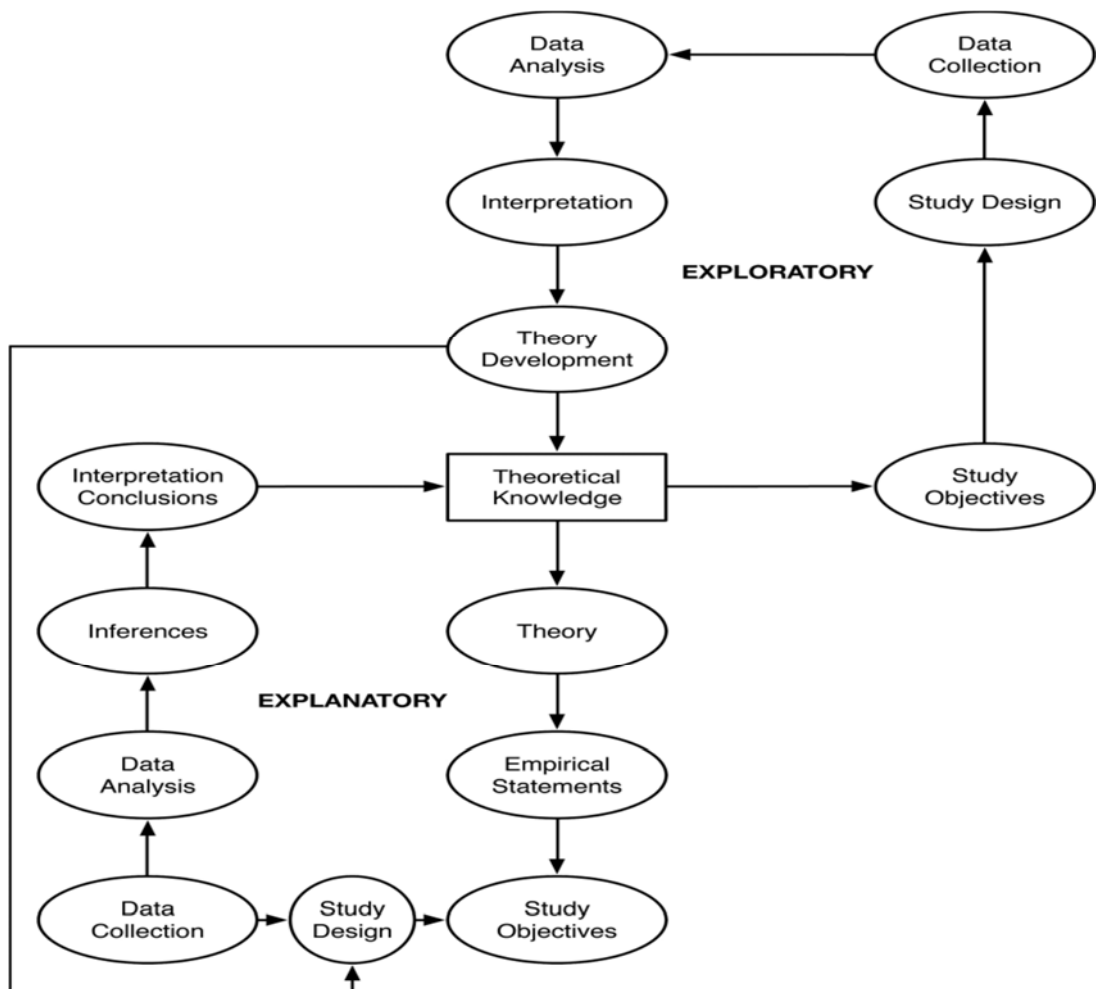


図 1 民族誌的リサーチ過程全体内部での探索アプローチと説明アプローチの関係
 [Johnson and Hruschka 2014: 108]

- これらの基準のすべてあるいは一部を満たす著作を産み出すために、幅のあるフィールド

ドワーク、道義的に説得的な語り口、三角測量の観察、バイアスを最小化するデータ、人口の体系的なサンプリングの使用などがある。

- ソリッドなデザインでは、5、6、7、8、9、10、11 が特に重要である。

・リサーチデザインは量的／質的データ、客観的／主観的測定、生物学的／文化的要素を含みうる。また、科学的な問いの探索的 (exploratory) ／帰納的な段階と価値的／演繹的な段階両方の重要な要素である。

体系的な探究のためのデザイン pp.107-110

・心理学や社会学、経済学で用いられる分析テクニックはスタンダードなデザインを導くものに対して、人類学では民族誌の様々な要素を含んだ性質によってリサーチのデザインはオープンエンドとなる。

- 民族誌的研究は、単一の民族誌的な文脈の中に多様なデザインの使用を含むので、幅広いリサーチデザインに従属する。
- デザインはよい研究の基礎である。洗練された統計やコンピュータによるテキスト分析をもってしても、間違っただesignは救済しえない。

・図1が示すように、理論から経験的な主張の発展 (仮説)、理論的概念の操作 (意味のある、信頼可能な測定)、デザイン (研究される集団)、データ収集 (量的／質的)、データ分析 (多様な後戻り、テキスト分析) への同時の関心を含む。

・図1にあるように、民族誌的調査 (さらには科学的調査) では探索的なアプローチと説明的なアプローチは補完的な関係にある。

- 理論は観察から導かれなければならない。それゆえ、探索的、帰納的な探究が理論の発展に決定的である。

・今日では人類学において探索的研究を行うための多くのツールがある。

- 一つの記述の代表性を高めるサンプリング戦略、有効で信頼性の高い情報を収集する行動観察とインタビュー技術、量的・質的データを分析するための技術など…

・研究を計画する時に考える二つの熟慮

- ①適切な比較集団の選択と差異の解釈
- ②成果が適切に代表的で一般化が可能となるような集団と参加者のサンプル方法

①比較：リサーチ・クエスチョンを立てる上でも重要 pp.110-114

実験は比較一般について考える上で極端な例である。実験は別様の説明を排除す

ることができる。人類学ではほとんどが観察的なものであるが、場合によっては疑似実験的、自然実験的なデザインが用いられることもある。

観察的デザイン	疑似実験的デザイン
コホート研究	一集団ポストテストデザイン
横断研究	同等でない集団のポストテストデザイン
症例対照研究	同等でない集団のプレ・ポストテストデザイン
統計集団比較	中断された時系列デザイン

実験的デザインの目的は有効性への脅威を避けること。

②サンプリング pp.114-116

一般化のためにはサンプルがより大きな個体群の代表である必要があり、それに即した厳密なサンプルの方法がある。個体群における多様な見解のカタログを作ることが目的である場合には、別の方法がある。

人類学的実践における研究デザイン：体系的な研究戦略 pp.116-126

・以下は近年の文化人類学における研究デザインの7種類の例

①ローカルに妥当するカテゴリーを同定するための探索リサーチの使用 p.116-117

Koester et al. (1996) : 参与観察によって、注射薬使用者と HIV の関係について、注射針の直接共有以外にも、9つの「間接共有」と呼べるパターンがあることを指摘し、その後比較実験によってその有意性が示された。

②社会内部での諸個人の比較 pp.117-118

Boster & Johnson (1989) : による民族生物学的研究 : 自然史的分類と土着の分類の対応、熟練漁師と新米漁師の比較。被験者のランダムな割り当てがないため、因果推論能力を制限はしているが、深い民族誌的な背景研究、仮説の特定の構造、情報提供者の応答の信頼性などによって、結論の有効性が信頼できるものとなっている。

③事例コントロールデザイン pp.118-119

Bear et al. 2012 : メキシコで、糖尿病と非糖尿病のグループに分けて *susto* と呼ばれるローカルな状態の診断の糖尿病との関連を調べる。グループを分けているということにより、一つの集団だけを検討するよりもリスク要因としての *susto* に関する仮説の、より偏りのない検証ができています。

④二つのコミュニティの比較デザイン pp.120-121

Young & Garro 1982 : 医療人類学における、土着の病気に関する信念と西洋医学の治療

との関係の研究。2つのコミュニティでの治療の在り方を比較。ランダムに割り当てて
いるわけではないので厳密な実証ではないが、有効な説明をしている。

⑤大規模クロス人口比較 pp.121-122

集団主義、公平観、親族や社会集団の在り方の大規模な比較。経済学や心理学への応答
として行われた。

⑥フィールド実験 pp.123-124

フィールドにおいてランダムに人々を割り当てて、条件を制限して実験。

Farmer (1999) : ハイチの田舎の診療所で実験。完全にランダムではないが、他の条件
を調整することで有効性を保証している。

⑦繰り返される測定デザイン pp.124-126

因果関係を確定するには実験的で長期的なデザインが必要。人類学者は数カ月、時には
数年にわたってフィールドでデータを集めるが、体系的な長期的なデザインをほとん
ど用いない。例外的に Johnson らは 8 年にわたり、小さな集団のネットワーク構造のイ
ンフォーマルな社会的役割の出現の影響に関心当てて、ある種の自然実験を行った。一
定期間、南極の基地に滞在する成員の調査。それぞれの成員の文化的背景と滞在中の役
割との関係を明らかにした。

まとめ p.126

・文化人類学におけるリサーチデザインと戦略の、このレビューは民族誌の文脈内部で可能
なりサーチデザイン、ハイブリッドデザイン、デザインの組み合わせの表面だけを素描して
きた。

・民族誌的アプローチの強さは、信頼性や有効な結果のための機会を向上させるために、
様々な方法、戦略、デザインを組み合わせ、単一の企ての中に含みこむ、その能力にある。